［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500702		
法人名	社会福祉法人 サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼小伊木町３丁目１７０番地１ （電話） ０５８－３７９－５４１１		
評価機関名	ＮＰＯ法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町３丁目７番地 尾関ビル		
訪問調査日	**平成20年3月6日**	評価確定日	**平成20年4月17日**

【情報提供票より】 （平成 20 年 2 月 5 日 事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人,非常勤 3 人,常勤換算	7.54 人

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 1 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	27,000 円		その他の経費（月額）	11,040～ 円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 ／ 無
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（４）利用者の概要 （平成 20 年 2 月 5 日 現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護１	1 名	要介護２	5 名		
要介護３	3 名	要介護４	名		
要介護５	名	要支援２	名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	東海中央病院、米倉胃腸科・外科、馬場医院（歯科）

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し離れ、自然豊かな田園に囲まれた環境の中に、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター等に併設されたホームである。法人内はすべて電子カルテを使用し、書式が統一され、情報の共有化が図られている。また、外部・内部にわたる研修も充実しており、職員は積極的に参加し、地域の人々共に利用者を支えている。法人として組織の大きい事や併設施設のメリットを最大限に活かした体制がある。利用者は五感で四季を感じながら、地域の中で様々な交流を通して、生活の質を高め、生き生きとした日常生活を営んでいる。法人の理念に沿った実践が効果を得て、今後、ますます期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善課題となった玄関まわり等の配慮やホームに閉じこもらない生活支援に対しては、工夫や積極的な外出支援で、改善に向けての取り組みが行われていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	昨年の自己評価を基にハウスマネジャーを中心に職員全員で話し合い、評価の意義を理解して再度確認し、ケアに活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は、ホームの行事報告、事業計画、職員の募集や家族の不安等、その都度のテーマについて、3ヶ月に1回、開催されている。参加者メンバーについても、近くのスーパーの責任者や警察官にも参加してもらえるよう検討し、より地域と密につながり、運営に活かせる内容となるよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	年2回の家族会を開催して意見交換会をしたり、月1回の「あじさいたより」で近況報告を行っており、その中で意見・不安を出してもらっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し、地域行事や地域の子ども達のための見守り隊、公民館のボランタリーハウスで行われるシニアクラブの催し等に参加している。また、併設の「地域交流センター」を活用し、地域の人たちと、常時、関わりを持つことができる。

2. 評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は地域との関わりが明示されている。ホーム独自の実践目標「あじさい憲章」があり、1年毎に見直されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、スタッフルームの常時目に触れる場所に掲示されており、職員にも配布され、理念の共有化とケアの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、公民館のボランタリーハウスで行われるシニアクラブの催し物や町内会の花見に参加している。また、地域の子ども達の安全のための見守り隊活動、小学校の交流学習の受け入れなど、地域の一員として交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価・今年度の自己評価をハウスマネージャーを中心に職員で話し合い、学習会にも活用して出来る事から取り組んでいる。前回の改善課題も前向きに取り組み、さらに新たな改善に向け、常にサービスの向上をめざす姿勢にある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、市と相談の上、3ヶ月に1回行われている。内容の一部として、職員の確保について意見をもらったり、ホームの運営に活かしている。今後は、参加メンバーに地域からスーパーの責任者や警察官などにも参加を呼び掛ける方向で前向きに取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年3回の法人行事「皐月祭り」「夏祭り」「記念祭」の折には、市高齢福祉課担当者の参加があり、交流が行われている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	週1回の電話や家族の訪問時に、連絡が偏らないよう、各担当者がチェック表で確認し報告をしている。また、月1回の「あじさい便り」でも各利用者の近況を報告している。家族向けの掲示板が玄関横にあり、行事等日常の様子がわかるようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	週1回の電話連絡時や面会時に、意見や心配事を聞いている。家族会が年2回あり、その後、意見交換を行い、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動後は、1日も早く、なじみの関係をつくるため、古くからの職員の協力を得ながら会話のチャンスの多い外出支援を利用し、利用者と新しい職員の関係をサポートしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で採用時に新人研修を行っている。ホームとして可能な限り、勉強会や研修には参加している。施設全体で認知症勉強会を開催する予定がある。	○	非常勤職員が、認知症を理解する研修等に参加できる機会の確保に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会の学習会に参加して交流を持ち、各務原市主催の通所部会に参加し、他の事業所とも交流はある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	敷地内に隣接している通所介護サービスや短期入所サービスを利用し、馴染みの関係づくりが出来、サービスの利用にうまく活用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に寄り添いながら、様子を見ながら一定の距離を置き、過剰な介入・介助は避け、信頼関係を築いている。利用者から、掃除に新聞紙や茶がらを利用する方法や漬物作りを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望は、外出時や食事の「つぶやき」からの把握といった日常生活のきめの細かいケアの中から把握している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当職員・ケアマネジャー・責任者が中心となり、職員間で話しながら、本人や家族の希望・要望に合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しに加え、急変や必要時に利用者と家族と担当職員の意見に基づき介護計画を見直し、新たな介護計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体機能低下の利用者には、併設施設の機械浴槽を利用し、ホームでは困難な入浴を可能にしている。また、芸能ボランティアの催し物や職員と共に楽しむカラオケなど、母体法人の「地域交流センター」を有効に活用している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ホームに入ったことで家族・本人の希望で変わることはなく、家族に送迎してもらっている。緊急時は特別養護老人ホームやデイサービスの看護師の指示を受け、ホームでの対応マニュアルがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内で重度化や終末期の対応が統一されており、安心して暮らせるように看取りに対応している。ホーム内での生活が困難になれば、特別養護老人ホームへの入所で対応している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー・個人情報の保護や取り扱いについては、特に注意をしている。個人情報に当たる不要な記録用紙は選択し、焼却処分にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者別に生活パターン表やデイリープランを作成し、半年に1回、見直しをしている。日常生活での「つぶやき」の聞き取りを活用し、希望・要望に添えるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が協力しながら、エプロンをかけ、おだやかに楽しそうな会話を交えて、昼食の準備を行っていた。食事中は、会話も弾み、職員が気配りしながら見守りをしている。漬物やおはぎづくりなど、利用者の出来る力を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、希望に応じて入浴可能である。利用者に公平に楽しんでもらうよう順番を変えたり、身体・体調に合わせてデイサービスの機械浴槽も利用している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望に合わせて、学習療法を取り入れており、園芸のできるスペースを用意し、支援をしている。元茶道の先生が抹茶をたて、利用者と職員で楽しんでいる。また、パソコンで囲碁を楽しんでいる利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物は利用者と共に行っている。職員と大型店へソフトクリーム・あんみつ・ケーキ等を食べに行ったり、神社や紅葉を見に出かけたり、地域の行事にも参加し、出かける機会を多く計画し、実践している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間と玄関には鍵をかけてはいない。施設内の広い中庭へは自由に行くことが出来る。門扉だけは施錠してあるが、樹木や置物を設置し、門の存在が分からないような工夫をしている。	○	鍵をかけないケアの実践に向けて、運営推進会議や職員間で、地域との連携や協力の必要性を考える機会とされたい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の併設施設との合同の防災訓練のほか、2ヶ月に1回のホーム内の避難訓練を実施ている。法人内で3日分の食糧・飲料水等の備蓄がある。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに必要な食事量を把握し、盛り付けをしている。水分摂取に関しては、食事とおやつの時間、それ以外にもこまめに茶を出すようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共同空間の廊下壁を利用し、心の落ち着くような写真や手作り作品が飾られ、温かみのある、なごみの空間が作られ、居心地よく工夫がされている。居間には衣桁が、鏡の横には昭和初期の京人形が置かれ、こたつも設置されて生活感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの部屋には、利用者好みの家具や仏教の本、和ダンスなどが持ち込まれ、馴染みの品・こだわりの品などが置かれている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。